



2020年12月10日(木)

第2回 宇部市立図書館リニューアル市民委員会

開催報告書

宇部市立図書館リニューアル第2回市民委員会

1. 日時
2020年11月21日（土）10:00～12:00
2. 場所
宇部市立図書館講座室、Zoom
3. 参加人数
合計33人（会場参加：25人、オンライン参加：8人）
4. テーマ
「これからの“読書”のあり方を考えよう」
5. プログラム概要
 - ① 第1回市民委員会の振り返り
 - ② 話題提供「いまなぜ、改めて読書を問い直すのか」
 - ③ ワークショップ「これからの“読書”のあり方を考えよう」

タイムテーブル

1部	10:00-10:05	はじめに・本日のプログラム（5分）	arg
	10:05-10:10	市民委員会の目標（5分）	arg
	10:10-10:15	第1回市民委員会の振り返り（5分）	arg
	10:15-10:25	話題提供（10分） 「いまなぜ、改めて読書を問い直すのか」	arg
2部	10:25-10:55	ワークショップ（30分） 「これからの“読書”のあり方を考えよう」（前半）	全体
	10:55-11:10	休憩（15分）	
	11:10-11:40	ワークショップ（30分） 「これからの“読書”のあり方を考えよう」（後半）	全体
	11:40-11:55	各グループの発表（15分）	全体
	11:55-12:00	講評・閉会の挨拶・連絡事項（5分）	図書館

ワークショップ「これからの“読書”のあり方を考えよう」

第2回ワークショップでは、“読書”に対する固定観念を揺さぶり、改めて読書の意味を考えていった。以下4つのテーマに沿って、普段自分たちがどのように、どんな読書をしているかグループディスカッションを行った。

テーマ1「毎日の暮らしのなかで、なにを読んでいますか？」〈対象〉

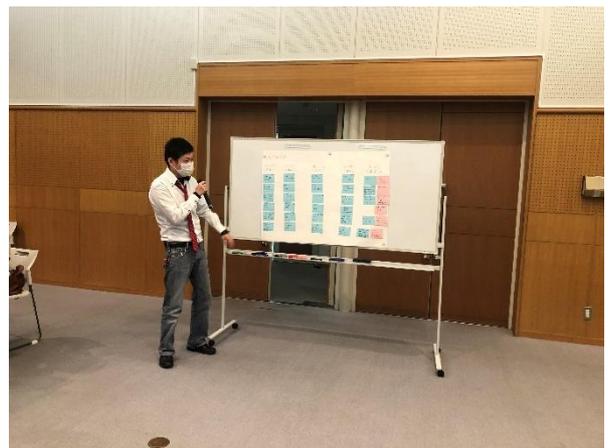
テーマ2「あなたはそれをどこで読みますか？」〈場所〉

テーマ3「あなたはそれをどうやって読みますか？」〈手段〉

テーマ4「あなたはそれをなんのために読みますか？」〈目的〉

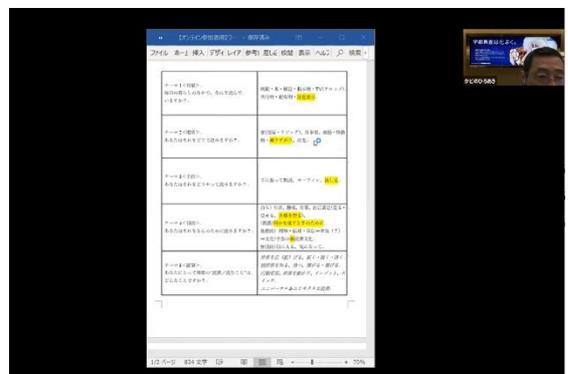
それをふまえて、最後にテーマ5として「あなたにとって理想の“読書／読むこと”はどんなことですか？」というテーマで、理想の読書や、これからの“読書”のあり方について展望を話し合った。

<現地参加者>



撮影：arg

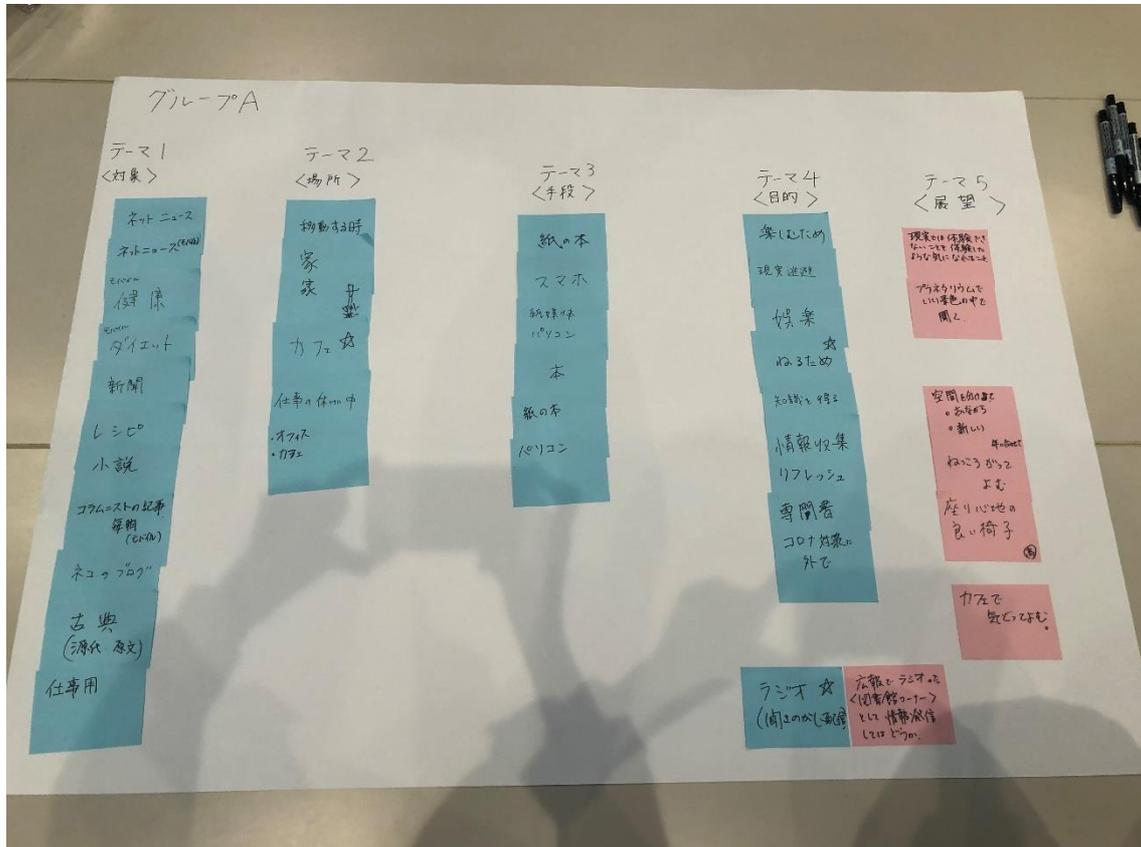
<オンライン参加者>



撮影：arg

第2回市民委員会の成果

<グループA>



撮影：arg

【テーマ5 で出た意見】

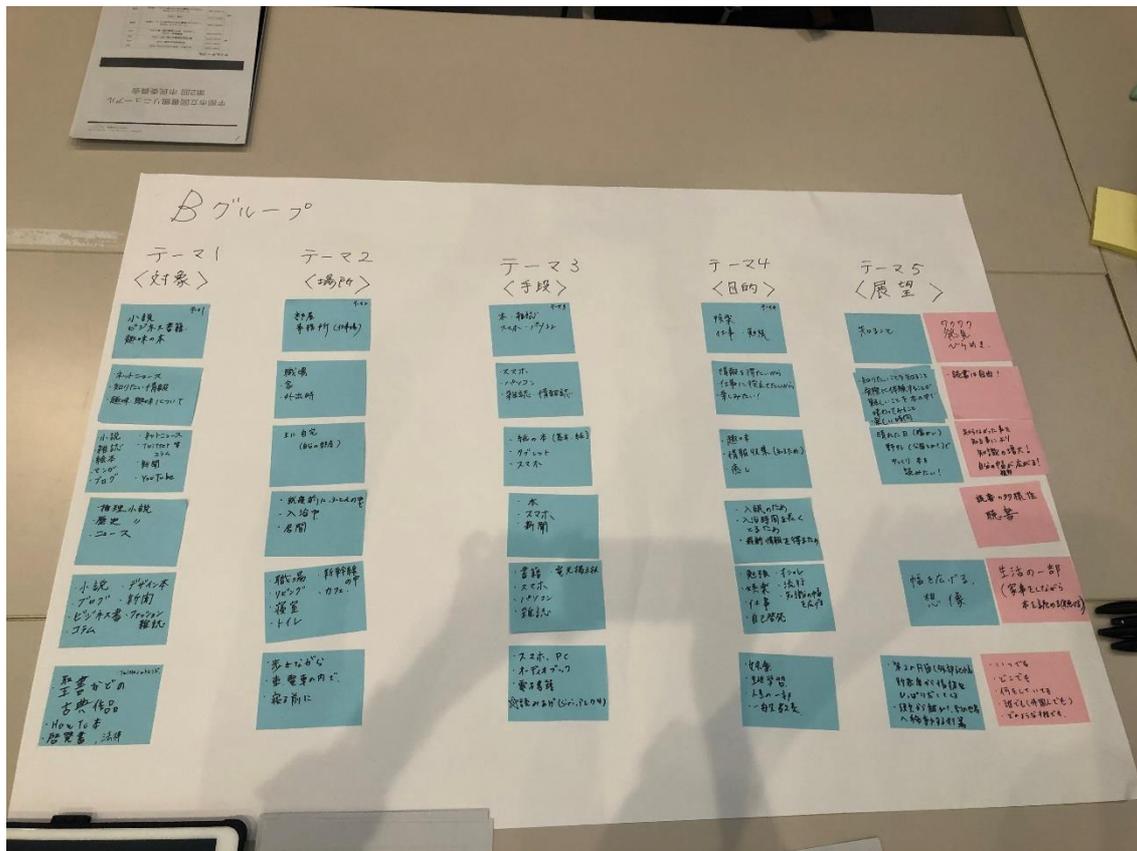
- ・ 現実では体験できないことを体験したような気になれること
- ・ プラネタリウムでいい景色の中で聞く
- ・ 空間を分けて 古・新 年に合わせて
- ・ 寝転がって読む
- ・ 座り心地の良い椅子
- ・ カフェで気取って読む

気持ちを切り替えるための読書

読書をしている自分を楽しむ

新しい知識によって自身を拡張する

<グループB>



撮影：arg

【テーマ5で出た意見】

- 知ること
- 体験を増やす。理動より感動を！知りたいことを知ること。実際に体験することが難しいことを本の中で味わってみること。楽しい時間
- 晴れた日（暖かい）野外（公園とか？）でゆっくり本を読みたい！
- 幅を広げる、想像
- 第二の脳・外部記憶貯蔵層から情報を引っ張り出してくる。現実から離れて、別の世界へ移動する行為

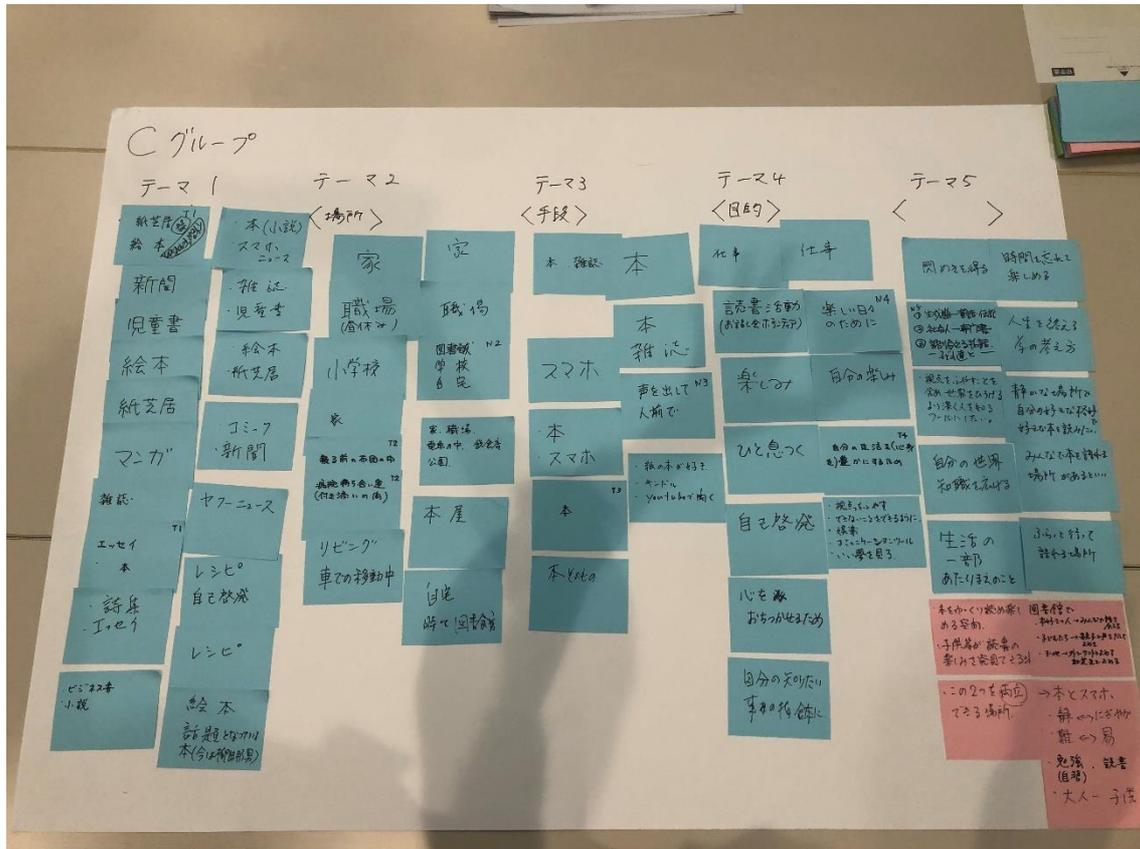
多様な媒体を使い分ける

気持ちを切り替えるための読書

日常生活と読書の両立

新しい知識によって自身を拡張する

<Cグループ>



撮影：arg

【テーマ5で出た意見】

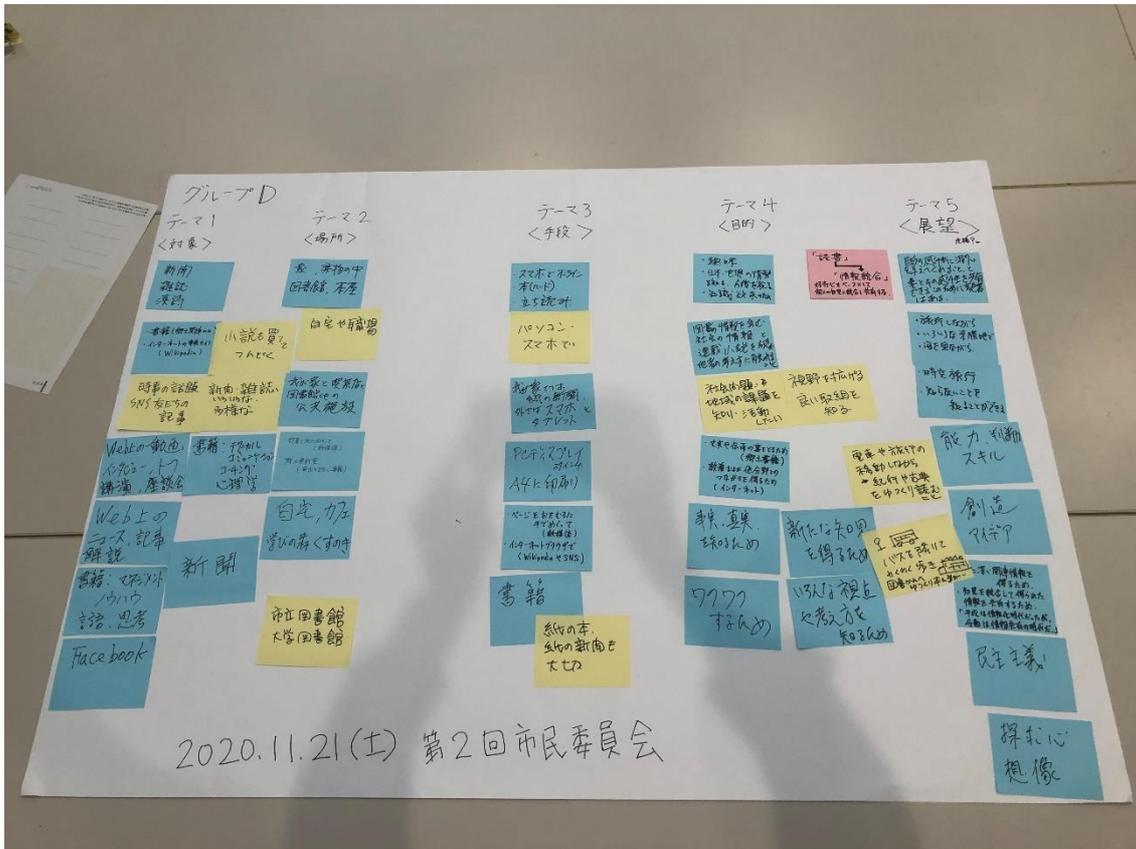
- 閃きを得る
- ①生成期-童話・伝記 ②社会人-専門書 ③語り合える物語-子ども達と視点を増やすことを含め、世界を広げる
- より深く人を知るツール
- 自分の世界、知識を広げる
- 生活の一部、あたりまえのこと
- 時間を忘れて楽しめる
- 人生を終える為の考え方
- 静かな場所で自分の好きな格好で好きな本を読みたい
- 皆で本を語れる場所があるといい
- ふらっと行って語れる場所

1人で静かに没頭する

みんなでにぎやかに語り合う

新しい知識によって自身を拡張する

<グループD>



撮影：arg

【テーマ5で出た意見】

- 自分の感性に潤いを与えてくれること。妻とその感性を共有できる
- 旅行しながら。色々な景勝地で。海を見ながら。時空旅行。
- 知らないことを知ることができる
- 能力、判断力、スキル
- 創造、アイデア
- 更に深い関連情報を得るため。知見を統合して得られた情報を共有するため
- 民主主義
- 探究心、想像
- 「読書」→「情報統合」好奇心をベースとして個人の知見と統合し共有する

新しい知識によって自身を拡張する

多様な媒体を使い分ける

社会とつながり、知識を循環させる

<オンライン参加者>

【テーマ5で出た意見】

- 自分自身と向き合える時間に、一人で、誰も(時間も)気にすることなく、自分の世界を広げることができるものを読みたい
- 忙しい中で短い時間で手間をかけずに、周りを気にせず没頭できる時間。また、読み終わりの期限に急かされないマイペースな読書
- 仕事の価値を上げる知恵の泉、アイデアの共有
- 疑似体験・想像
- よく眠れること
- 居ながらにして新しい情報や未知の世界に触れることができ、年齢を重ねても頭も心も生き生きと暮らすためのツール
- 世界を広(拡)げる、拓く・披く・啓く
- 別世界を知る、持つ、繋がる・繋げる
- 行動変容、世界を動かす、インプット、スイッチ
- ユニバーサル&ユビキタスな読書

1人で静かに没頭する

気持ちを切り替えるための読書

新しい知識によって自身を拡張する

各グループの成果物からみえた読書のあり方

多様な媒体を使い分ける

健康に関する記事やレシピ等、生活に密着した身近なものから、仕事に関するものまで、多面にわたる読書を挙げていた。また、SNSの記事や、wikipedia等、ネット上で読む文章や、講演会、座談会などリアルで体験して得た知識等、形式にとらわれない多様な読書の在り方を提示し、場所や目的に応じて柔軟に使い分けていることが読み取れる。

気持ちを切り替えるための読書

読書をしている自分を楽しむ

娯楽や現実逃避等、リフレッシュすることを目的に読むことが多いため、普段とは違う非日常的な空間で読書をしたいという気持ちがうかがえる。眠るためにあえて読書をするという意見もあり、座り心地の良い椅子やねっころがって読書ができる環境なども挙げられ

ている。忙しい現代において、身心共に休めるためにも読書を通して意識的に「休む」という行為が必要だという意識がみられた。

日常生活と読書の両立

オーディオブックや、スマートスピーカーによる読み上げ機能等、耳で聞く読書にまつわる意見が挙げられていた。「生活の一部（家事をしながら）」という言葉や「いつでも、どこでも、何をしても」というキーワードも出ており、日々忙しく時間が限られているからこそ、デジタルメディアも活用し、効率よく読書をしたいという意識がうかがえる。

新しい知識によって自身を拡張する

仕事や趣味のために知識をインプットすることで、自分自身の幅を広げ、結果として生活を充実させたいという意見がみられた。また、現実を離れて別の世界へ移動する、実際に体験できないことを、読書を通して追体験する等、読書によって自分の想像力や視野の幅を拡張したいという目的意識が読み取れた。

1人で静かに没頭する

みんなでにぎやかに語り合う

静かな場所で本を読みたいという意見や、反対にみんなで本について語れる場所があるといい、という意見もあり、誰と・どのように読書を楽しむか、という視点で語られていた。子どもからお年寄りまでさまざまな利用者の、多様な読書のあり方を柔軟にとらえており、誰もが自分らしい読書空間を見つけられるよう、静かな空間とにぎやかな空間が両立した空間づくりへの期待がうかがえる。

社会とつながり、知識を循環させる

読書を通して知識を得ることをゴールとせず、情報発信をしたい、活動をしたいという次のアクションまでつながっている。一方的に知識を得るだけでなく、読書の相互的な働きへの意識が読み取れた。

以上